

外国語を通して人と繋がる

小山小学校 花岡 和 貴

小山小学校では、「考えることを楽しむ授業づくり」「多様性を包み込む学びの環境づくり」に取り組んでいます。その中で、英語学習の充実・コミュニケーション能力の育成に向け、外国語の学習で、高校生との交流を実施しました。

5年生の外国語の単元に「I can jump high.」という単元があります。私は、5年生の子どもたちと、「お互いのことをよく知るために、自分のできることを伝えたり、相手にできることを尋ねたりしよう」という単元目標と一緒に考えると、単元の終わりに高校生との交流があるということを経験しました。

子どもたちは、クラスの友だちに対して、自分が自信を持ってできることや自分が友だちに知ってもらいたい一面について、積極的に伝えたり尋ねたりしながら、簡単な語句や基本的な表現を習得していききました。

高校生との交流当日、子どもたちは、緊張しながらも、高校生に対して、「I can swim. I can swim the butterfly. Can you swim?」などと、単元目標に向かって、意欲的に自分の思いを表現していました。高校生は、5年生の発話を聞き、「Nice! I can swim too. I can swim the crawl. Do you like swimming?」など、簡単なアクションをとったり、話題に関連する質問をしたりしながら、会話を広げてくれました。

5年生と高校生のペアをローテーションしながら活動を行い、会話を終える毎に、中間評価を実施して、自分のやり取りについて振り返る時間を設定しました。最初の1、2回目の会話の後は、「I can play basketball.」「Can you ski?」など、学習した表現に注目し、正しく英語を使って話すことに意識を向けていた子どもたち。しかし、高校生との会話を通して、自分の発話を受け入れてもらう安心感、伝えたい内容について、話が深まっていく喜びを感じていました。そして、コミュニケーションの本質について、体験を通して学びを深めている姿がたくさん見られました。

3回目以降の会話では、「I can play soccer. I like playing soccer. Do you like soccer?」と、既習事項を活用して、質問をする子。「I can cook omurice.」という高校生の発話を聞き、「Good! I can cook fried rice.」と、共感した上で、自分のことを付け加えて伝える



子。「cooking」の話題を切り口に、高校生が「I like eating. I like sushi.」と言うと、「Me, too. What(kind of) sushi do you like?」と、話題をさらに深める子。高校生とのやり取りの中で、変容していった素敵な姿について、中間評価を通して、全体に共有することで、多くの子どもたちが、英語を使って主体的にコミュニケーションを図ろうとしていました。

高校生の姿から、「自分のことを相手に分かりやすく伝えよう」「相手の気持ちや考えをもっと引き出そう」という思いを持ち、進んで実践しようとした経験は、子どもたちの心に残るはず。このような学びの積み重ねが、子どもたちのコミュニケーション能力の向上に繋がると同時に、これから生きていく子どもたちが、人と人が繋がる喜びを感じ取り、豊かな人間関係を構築していくための力になっていくということを信じて、これからも日々の教育活動を行っていききたいと思います。



教育会だより

- 7・11 講師 岩川直樹 先生(埼玉大学教授・信濃教育会教育研究所 所長) 研究企画委員会 第6回教研推進委員会
- 25 教育会夏期講演会 立川談慶先生(落語家) 演題『自己啓発と落語囃について～他落語一席～』 会員発表 発表者 池森 潤 先生(須坂市立相森中学校) 演題『その子らしく学ぶ姿を受け入れ、よさを支えていく教師を目指して』
- 29～31 同好会夏期講座・第4回同好会(各会毎独自に開催)
- 8・21～23 日本連合教育会研究大会茨城大会
- 25 第7回教研推進委員会・第2回教研学校代表者会
- 26 第4回研究推進委員会 兼 信州教師塾B(於 日滝小) 「信州教師塾B」(仲間とともに学ぶ～岩川直樹先生の講話を聞きながら～)
- 28 第4回理事会
- 29 第5回同好会
- 9・4 上高井教育七団体代表者会(書面にて)
- 5 第8回教研推進委員会・分科会長会
- 6 上高井教育研究集会(分散会:常盤中・小布施中・高山中)
- 17 上高井教育七団体代表者会 県教育委員会への要望書の集約
- 19 第5回研究推進委員会
- 30 第9回教研推進委員会

- 10・3 第6回研究推進委員会
- 7 第6回同好会
- 10 上高井教育会公開授業研究会(日滝小・中心講師ご指導) 国語(日野小)、社会(常盤中)、算数・数学(相森中)、理科(相森中)、生活・総合的な学習(日滝小)、音楽(墨坂中)、図工・美術(小布施中)、体育・保健体育(森上小)、家庭・技術家庭(相森中)、外国語活動・英語(小山小)、道徳(高山小)、特別支援教育(小山小)、健康教育(教育会館)
- 18～19 郡科学作品展
- 25～26 あゆみ展・都市展覧会(シルキーホール)
- 28 第5回理事会・令和7年度教育会中間会計監査
- 31 第7回同好会
- 11・6 信州教師塾B(上高井・長水 各教育会合同開催)
- 10 第2回教研三団体代表者会
- 13 第4回教育会総会 ○令和7年度教育会中間会計監査報告 ○令和8年度教育会事業計画案
- 15 信州“教育の日”松本大会
- 20 北信教育会情報交換会
- 21 第8回同好会
- 27 第7回研究推進委員会
- 12・15 研究委員長会③
- 20 上高井教育会報第243号発行



第243号

発行所 上高井教育会
発行人 上高井教育会理事長 松本孝志
編集人 会報編集委員長 前田博展
印刷所 須坂新聞社

火ばら 談義

歩く

竹前良彦

「今日は二万歩きましたよ」 「〇〇先生、もう百万歩越えたんですね」

最近の職員室の中でされる会話の様子です。「信州ウォーキング大賞」という取り組みで、職場内で三人一組のチームを作り、九月から三ヶ月間、総歩数を競っています。情報交換をしたり励まし合ったりして、職員室内の会話も増えて、とても良い取り組みだと思っています。

昨年まで私は香港の日本人学校に勤務していました。香港では車を所有することは富裕層に限られていたため、私達派遣教員も当然車を所有することはできず、移動

の際は公共交通機関を利用していました。毎日かなりの歩数を歩く生活で、多い日は三万歩を越えることもありました。帰国するまでに靴を五足履きつぶすほどでした。帰国してからも学校までは自転車か徒歩で通勤するようにしています。住み慣れた須坂の土地ですが、歩いていると細かなところに気がつくようになり、退屈しません。季節の移り変わりを肌で感じたり、知らなかったお店が開いていたりと日々発見があります。また、今年から長男がバスケットを始めたので送迎で県内各地に行く機会が増えました。長男が試合をしていない時間はせっかくなので体育館の周辺を散歩するようにしています。今まで自分で出かける機会がなかった土地を歩くことも楽しみの一つになりました。小諸市では地層が多いことに驚きました。中野市の東山公園では中野市を一望することができました。春には花見もできるそうです。

平日、帰宅してから子どもたちが習い事のない日は、子どもの体力作りと私の歩数アップのために時々ランニングに出かけます。家にいると子どもたちはテレビやゲームをしていて、親子で会話することも少ないのですが、走りながらだと結構あれこれと学校のことを中心に話をしてくれます。こちらも毎日の楽しみの一つになりました。

歩くことは私の生活を確実に豊かにしてくれています。これだけ歩いたり走ったりしても体重が落ちない事だけが不満ですが、これからは継続していききたいです。



いちご (高山中 原田奈実)

「つながる 広がる」 けん玉の世界

小松純也

三年前の冬、雪がちらちらと降る寒空の中、安曇野へ家族で出かけました。用事を済ませ、少し観光をしていこうと安曇野スィス村へ立ち寄ったところ、そこにはけん玉をしている人がたくさんいました。当時、小学校二年生の私の息子が生活科でけん玉をやっていたことから、私自身もけん玉に興味を持ち始めていたところでした。これは何かの縁だと思い、ホールの中に入ってみると、「ノセメガネカップ」というけん玉の大会が開催されていました。初めてけん玉のパフォーマンスを生で見た私は、「けん玉でこんなことができるんだ!」と強い衝撃を受けました。また、けん玉には「けん玉検定」というものがあることも初めて知りました。早速、その場で息子が「けん玉検定」を受けてみたところ、いくつもの技を成功させることができ、合格シールを

二つももらうことができました。しかし、できなかった技もあり、悔しい思いもしました。ここから我が家のけん玉熱が上がり、いきました。「けん玉検定」は子どもだけではなく、誰でも受けることができます。そこで「家族みんなで『けん玉検定』を受けよう!」ということになり、家族で練習を始めました。練習を続けていると、「できた!」という達成感と喜びを心地よく味わうことができ、「もつとけん玉をやりたい!」と気持ちが高まっていきました。今では、「けん玉先生」の資格取得も果たし、けん玉の楽しさを伝えるための地域活動にも参加するようになりました。

そして、今年度は二年生の担任になりました。生活科では、「けん玉遊び」や「けん玉検定」など、けん玉を取り入れながら、子どもたちと楽しく活動しています。最初は上手いかなということもあった子どもたちですが、どんどんと上達してきていきます。今は、子どもたちの「できた!」を見ること



編集後記

令和七年度会報二四三号を無事に発行し、お届けできました。ご多用中にもかかわらず、執筆にご協力いただいた会員の皆様に、心より感謝申し上げます。

会報は、先生方の日頃の実践や想いを知ることができる、貴重な機会だと感じています。先生方が練って書き上げた文章を、手軽に短時間で読めるなんて、なんて贅沢なのだろうと思います。文章にすると、ちょっとしたおしゃべりではわからない、執筆者の考え方や魅力をより知ることができ、それをもまた面白いと感じます。

日々忙しい中ですが、会報が、何かをやるきっかけや、ほっとする時間になれば幸いです。(上馬場)

委員長 前田 博展 高甫 小副委員長 加藤 敦子(小布施中) 事務局 今田 晴美 高山 中委 員 上馬場 早恵 須坂 小徳武 育(日野小) 市川 麻衣子(高山小) 馬場 ゆみか(墨坂中) 小林 誠(小布施中)

令和七年十一月七日、会報編集委員長の前田博展校長先生がお亡くなりになりました。心よりご冥福をお祈りいたします。

しらかば学習発表会

高山小学校 中谷 寧

本校では、高山村の人々や環境から学び、地域のよさを実感しながら地域のためにできることを見つけ、実践していくことを目的に、①「学校・PTA・公民館が共催する親子体験講座『わくわく村』」②「生活科・総合的な学習の時間を中心とした地域に学ぶふるさと学習」③「学校支援ボランティアの支援による教育活動」を、三つの柱として取り組んでいます。また、これらの成果の発表の場として、『しらかば学習発表会』を、毎年十一月の土曜日に実施し、保護者や地域の方に公開しています。

昨年度、体育館ステージでは、「わくわく村高山太鼓」の演奏や、自分たちで育てた野菜について調べたことなどを発表しました。教室では、高山村のりんご作業体験・共選所見学の様子や、高山村のCMづくりなどについて発表をしました。多目的室では、わくわく村の活動の様子の写真や、クラブの時間に学校支援ボランティアの方に教わりながら作成した作品などを展示しました。

「日本で最も美しい村でのふるさと学習」という理念のもと、子どもたちにとって、教科や総合的な学習の時間の学びが、更に広がり深まる活動となるようにすすめていきたいと思っています。



保護者と手を携えて

豊丘小学校 高梨 彰 央

運動会前日、翌日は確実に雨の天気予報。午後の時点でも予報が変わらず早々に延期を決定しました。しかし、当日土曜日は無情にも午前中は曇り空。運動会できたなあと恨めしく空を見上げていると午後からは情け容赦ない雨。夕方、校庭は完全に沼となり、明日の開催が危ぶまれる事態に。

保護者の方が手伝いに来てくれたのです。PTA会長さんの呼びかけもあり、いつの間にか十名以上の方が集まり、一輪車で土をどんどん入れてくださいました。開始一時間前にはトラックが気持ちよく走れるように整備され、運動会が開催できるようにになりました。職員だけでは、ここまでの整備はできなかったことでしょう。

運動会本番は、子どもたちが力いっぱい競技に打ち込み、素敵な運動会になりました。「何としても日曜日に運動会を



縦割り総合

仁礼小学校 雪入 さやか

子どもたちが「すき」「やりたき」「楽しい」を追究し、自己実現が図られる学校を目指し、今年度縦割りグループで行う総合的な学習に挑戦しています。

テーマは、「食・栽培」「文化・歴史」「自然・環境」「福祉・交流」の四つで、全員が第一希望のテーマで学習が始まりました。「野菜菜を育てておやきをつくって食べたい」「仁礼町のお祭りなどの歴史や文化について調べてみたい」「学校のビオトープを



生徒主体の運動会

相森中学校 佐藤 雅 敏

近年の相森中学校の運動会は一年生がスタンツ（組体操）、二年生がソーラン、三年生が行進、というのが定着してきた。しかし、今年は生徒の主体性を大切にすることを学校の最上位目標に掲げ、運動会の種目も例年通りではなく、生徒が主体的に考え、企画、運営することとなった。

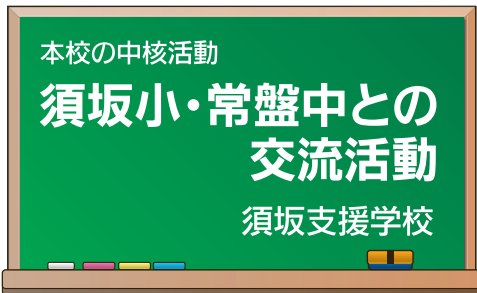
とはいえ、かつては一日開催で盛大に実施していた運動会も、コロナ禍を経て縮小されたので、「今年の学年種目は生徒が決めてよい」と言われても、私が担任を持つ二学年の生徒たちはよくわか



開催したい！」と職員と保護者の皆さんとが一体となった、地域の力を感じた運動会になりました。

たいことを追究するって楽しい」という思いを大切に、他の学習場面や来年度の総合的な学習の時間につなげていきたいです。

した教師側の関わりなくしては生徒主体の活動はできないと思うし、運動会当日の生徒たちはとても輝いていた。



が盛り上がりました。

昨年度からは、須坂小学校・小学部・中学部で十八の縦割り班を作り、交流活動「なかよし」の時間を設けています。「なかよし」では、須坂小学校の六年生が中心となり、「みんなが楽しめる活動」を企画しています。一緒に絵を描く、ダンスをする、風船バレーをするなど、毎回のいろいろな活動を行って楽しむ時間となっています。他にも、お互いの授業に参加し合ったり、休み時間等で一緒に過ごしたりしながら児童生徒同士の関係を深めています。



常盤中学校とは、対面式を行うほか、常盤中学校の常盤祭の見学や体育祭への参加をしています。また、常盤中学校の特別支援学級の皆さんを中学部のお祭り「みずす祭」に招いて交流しています。

須坂支援学校は、須坂小学校・常盤中学校と、お互い気軽に行き来したりやり取りしたりできる関係を目指して、これからもさらに、交流活動を推進していきたいと考えています。（森本高久）

本校の宝 85

豊洲小学校

「コロナを乗り越えた

校歌合唱の響き

感染対策が緩和されて、子どもたちと共に、校歌の二部合唱を復活させようと五・六年生を中心に練習を開始した昨年度。大変な制限を乗り越えて、子どもたちと音楽活動をまた心配なく取り組める。そんな象徴の一つになって欲しい、全校・職員皆で味わってほしいと願っての校歌二部合唱の復活でした。一学期終業式には「校歌斉唱」ではなく「校歌合唱」という式次第をお願いし、五・六年生の教室に朝に夕に赴き、アルトパートの練習を積み重ねました。しかし、練習を重ねても本校の校歌合唱はアルトパートがソプラノの三度下の音をなぞる部分が大半で担当する子は達成感が十分には味わえないものでした。

そして、一年たった今年度最初の音楽集会で、一年生への歓迎の為、校歌合唱を全校で歌いました。昨年度から一年年ずつ進級した子どもたちには、「うちの校歌は下のパートは少し物足りないけれど」と説明しながらも指揮をとり、全校で歌いました。そこで奏でられた子どもたちの校歌合唱は素敵なハーモニーで、まさに、作曲時にアルトパートが付けられたオリジナルであり、体育館の壁がこの響きを知っているようでした。

二番までしかない歌詞。「友どち」という印象的な言葉と共に作曲家の先生はこの地の子どもたちのために素晴らしい校歌を作



「豊洲小学校校歌」
坂本 一郎／作詞
平井 康三郎／作曲
瀧澤 忠雄／編曲



QRコードで校歌
が聞けます